

A yellow banner graphic with a central rectangular box containing the title. The banner has a folded effect on the left and right sides.

教員個人調書 作成マニュアル

摂南大学
学長室 企画課

平成29年11月
(平成32年4月 農学部開設用)

●教員個人調書の作成について●

『教員個人調書（様式4号）』は、文部科学省での教員資格審査を受けていただくために必要な書類です。この『教員個人調書作成マニュアル』をご参照のうえ作成してください。

～ 審査までのながれ ～

- ① 原稿（※履歴書・教育研究業績書）をご作成ください。
（記載事項確認のため「学位記」または「学位証明書」のコピーを添付願います。）
- ② 必要に応じて校正の依頼をさせていただきます。
- ③ 完成した書類への署名・捺印の依頼を送付します。
- ④ 署名・捺印した書類を当課へご返送いただきます。
（印鑑証明書（申請前3ヶ月以内に取得分）を添付していただきます。）

～ 先生にお願いする作業は以上です ～

- ⑤ 返送いただいた書類および写し数部を文部科学省に提出します。
- ⑥ 大学設置・学校法人審議会による審査が行われます。
（教員個人調書の内容に不明瞭な点があるなどの場合、問い合わせする場合があります）
- ⑦ 文部科学省から当課に審査結果の伝達があります。
- ⑧ 先生に審査結果をご連絡します。

～原稿の作成および校正方法について～

校正の方法は、Eメールへのファイル添付で行います（ファイル形式：Microsoft Word（win））。

Microsoft Word ファイルの利用が不可能な場合、また、「FAX 送信」や「郵送」をご希望される場合は、担当者にご相談ください。

～その他～

- ① 本学からの郵便の送付先を、教員個人調書記載の現住所以外に希望される場合は、その旨ご連絡ください。
- ② ご不明な点がございましたら、担当者までお問合せください。

摂南大学 学長室企画課

住 所： 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8

電話番号： 072-839-9450

F A X： 072-839-9451

メールアドレス： SETSUNAN.Kikaku@joshu.ac.jp（企画課代表アドレス）

担 当 者： 下林

I 履歴書

この書類は、教員資格審査において、基本情報となる書類です。i「個人情報」、ii「学歴」、iii「職歴」、iv「学会及び社会における活動等」、v「賞罰」、vi「現在の職務の状況」について記入要領をご参照のうえ記入してください。

【I - i】個人情報

(1) 氏名

- ① 漢字等は、**印鑑証明書**(印鑑証明書を有さない方については、**旅券<パスポート>**)と同じ氏名に合わせてください。
- ② 「フリガナ」も記入してください。
- ③ 旧姓等の通称名を使用されている場合、**本名を()書きで併記**してください。

(2) 生年月日(年齢)

- ① 生年月日は、**和暦**により記入してください。
- ② 年齢は、**平成32年4月1日(学部開設時)**の満年齢を記入してください。

(3) 国籍

外国籍の場合のみ、その**国名**を記入してください。日本国籍の場合は『-(ハイフン)』

(4) 現住所

- ① 住民登録の表記に合わせてください。
- ② 丁目や番地等は『-(ハイフン)』で省略せず、『○丁目○番地○○号』の形式で記入してください。

(5) 月額基本給(千円)

当課において入力しますので、**記入は不要**です。

<記入例>

履 歴 書				
フリガナ	ヤマダ タロウ	男	生年月日(年齢)	昭和46年11月7日(満48才)
氏名	山田 太郎			
国籍	※外国籍の場合のみ、その 国名 を記入してください。		現住所	〒535-0003 大阪府旭区大宮1丁目1番1号
月額基本給	※ 記入不要 千円			

【 I - ii 】 学歴

大学もしくは高等専門学校またはこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する方は、それらすべての*学歴およびその年月を記入してください。それ以外の方については、最終学歴を記入してください。

(1) 学歴(大学・大学院)

- ① 大学については、学部・学科まで、大学院については、研究科・専攻・課程(前期と後期に分かれる博士課程についてはその別)まで記入してください。【例1】
- ② 博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合は、「博士課程単位取得後退学」としてください。【例2】
- ③ 在学中の転部・転科、編入学、休学、復学および退学(中途退学も含む)についても記入してください。【例4】
- ④ ご卒業後に大学等の名称変更があり、現行の名称と相違する場合は、「(現 ○○大学)」と付記してください。【例5】
- ⑤ 外国の大学等の経歴については、大学等の名称や学位等はアルファベットと日本語訳(カタカナ等)を併記し、国名を必ず記入してください。(職歴も同様)

(2) 資格・称号等

- ① 取得された学位、称号等および学位に付記された「専攻分野の名称」および「学位論文の題目」を記入してください。(論文は英文の場合は()で和訳、学位は学位記と同一の正式名称を記入ください。学位認定番号は記入不要です)
【例1・3】(※例3はいわゆる「論文博士」の場合の記入例です)
- ② 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。【例6】
- ③ 外国における資格については、原語で正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語訳で併記してください。【例7】
- ④ 名誉教授についても記入してください。【例8】

(3) 外国留学

学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴について記入してください。

※ 研究者としての外国留学は、「職歴」(I - iii 参照)に記入してください。

(4) その他

- ① 大学の別科、専攻科についても記入してください。
※ 研究生、副手、助手、聴講生については、「職歴」(項目③参照)に記入してください。
- ② 外国の大学等の経歴については、大学等の名称や学位等はアルファベットと日本語訳(カタカナ等)を併記し、国名を必ず記入してください。
- ③ 「ディグリー・ミル」について
外国の大学の学歴については、各国政府機関等のホームページや大使館への確認等の手段により、当該大学等が当該国の正規の大学であることをご確認のうえ記入してください。

【参考】各国ホームページURL

<アメリカ合衆国>

CHEA(Council for Higher Education Accreditation) --- <http://www.chea.org/search/default.asp>

US Department of Education ----- <http://www.ed.gov/>

<カナダ>

CICIC(Canadian Information Centre for International Credentials) --- <http://www.cicic.ca/>

<中国(台湾、香港、マカオを除く)>

中華人民共和国教育部(英語) ----- <http://www.moe.edu.cn/english/list.htm>

(中国語) ----- <http://www.moe.gov.cn/edoas/website18/info11211.htm>

China Education and Research Network(中国語) --- http://www.edu.cn/HomePage/jiao_yu_zi_yuan/college.php

<イギリス>

Department for Business Innovation and Skills ----- <http://www.bis.gov.uk/policies/higher-education/recognised-uk-degrees/>

<オーストラリア>

Australian Qualifications Framework (AQF) ----- <http://www.aqf.edu.au/>

<フランス>

Ministère de l'éducation nationale, de l'enseignement supérieur et de la recherche ---- <http://www.education.gouv.fr/pid305/adresses-utiles.html>

<記入例>

学 歴			
年 月	事 項		
例1		≪平成3年6月30日以前に学位を取得された場合≫ 表記は「学位記と同一」にする ○○高等専門学校 ○○科 ○○類 入学 ○○高等専門学校 ○○科 ○○類 卒業 ○○大学 ○○学部 ○○学科 入学 ○○大学 ○○学部 ○○学科 卒業 (○○学士) 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 修士課程 入学 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 修士課程 修了 (○○修士) 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士課程 入学 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士課程 修了 (○○博士) 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】	
		≪平成3年7月1日以降に学位を取得された場合≫ ※ 学位規則の一部が改正されたことによる表記の変更 表記は「学位記と同一」にする ○○大学 ○○学部 ○○学科 入学 ○○大学 ○○学部 ○○学科 卒業 [学士 (○○学)] 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 入学 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 修了 [修士 (○○学)] 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 入学 ○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 修了 [博士 (○○学)] 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】	
	平成 2年 4月	○○大学 ○○学部 ○○学科 入学	
	平成 6年 3月	○○大学 ○○学部 ○○学科 卒業 [学士 (○○学)]	
	平成 6年 4月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 入学	
	平成 8年 3月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 修了 [修士 (○○学)]	
	平成 8年 4月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 入学	
	平成11年 3月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 修了 [博士 (○○学)]	
	昭和○○年○月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士課程 単位取得後退学	
	昭和○○年○月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士課程 退学 ※ 修了要件を満たさず退学した場合	
	例3		※ いわゆる「論文博士」の場合の記入例 表記は「学位記と同一」にする
		昭和62年○月	≪平成3年6月30日以前の場合≫ 工学博士 (○○大学) 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】
		平成 4年○月	≪平成3年7月1日以降の場合≫ 博士 (工学) (○○大学) 【論文題目：「・・・・・・・・・・・・・・・・」】

I 履歴書

例4	昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月	〇〇大学 〇〇部 〇〇学科 入学 〇〇大学 〇〇部 △△学科 転科
	昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 入学 〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 退学 △△大学 △△学部 △△学科 編入学
	昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 入学 休学 復学 〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 卒業 (〇〇学士)
例5	昭和〇〇年〇月	〇〇大学 (現 〇〇大学) 〇〇学部 〇〇学科 入学
	昭和〇〇年〇月	〇〇大学 〇〇学部 (現 ◇◇学部) 〇〇学科 入学
例6	昭和〇〇年〇月 昭和〇〇年〇月	高等学校教諭一種免許状 (理科) (昭〇〇高1 普第〇〇〇号) 薬剤師 (第〇〇〇〇〇号)
例7	昭和〇〇年〇月	Master of Arts / マスターオブアーツ (文学修士) (ABC University 〈England〉 / ABC 大学 〈イギリス〉)
例8	平成〇〇年〇月	〇〇大学 名誉教授

【 I - iii 】 職歴……平成31年3月31日現在で記入ください。

職歴のすべてについて、職名・地位（職階）・在職期間について正確に記入してください。また、過去に教員資格審査において、「㊤」「合」「可」の判定を受けられている場合はその判定結果も記入してください。

- (1) 各職歴について職名・地位・在職期間を明確にし、現職については、必ず「現在に至る」と併記してください。
- (2) 学内・企業内での異動等に関しては、「(〇年〇月まで)」と記載する必要はありません。【例1・2】
- (3) 外国での職歴も正確に記入してください。
大学等の名称や職階等はアルファベットと日本語訳(カタカナ等)を併記し、国名を必ず記入してください。
また、職階などが原語の場合は、日本語訳(カタカナ等)を併記してください。
- (4) 「専任」教員の職歴について
 - ① 学部・学科または大学院の研究科・専攻・課程の名称、職階(教授、助教授・准教授、講師、助教、助手等の別)、主な担当授業科目を()内に記入してください。【例2・3】
 - ② 大学における役職等についても記入してください。【例4】
- (5) 「兼任(非常勤)」講師の職歴について【例5】
 - ① 専任の職歴とは別に年代順にまとめて記入してください。
 - ② 職階は「兼任講師」としてください。
 - ③ 学部内の複数学科で同じ科目を担当されている場合、すべての学科名称を記入いただく必要はありません。
学部名称のみ記入してください。
- (6) 外国留学
研究者としての留学について記入してください。
※ 学生としての外国留学は、「学歴」(項目 I - ii 参照)に記入してください。
- (7) 教員組織審査歴
過去に文部科学省での教員資格審査で「㊤」「合」「可」の判定を受けられた方は、記入例をご覧ください、その判定結果の詳細を記入してください。年月欄には、文部科学省の審査が行われた年月を記入してください。文部科学省の教員審査の前判定の年月については、当時の所属大学に問い合わせいただき、正確な年月をご記載ください。
 - ① 大学の学部等の新設またはその年次進行中にご就任されたことがある方【例6】
大学名、学部名、学科名、職階(専任・兼担・兼任の別を含む)を記し、「可」の判定を受けた授業科目すべてを記入してください。
※ 兼任教員および兼任(非常勤)講師については、平成12年度申請以降、審査が省略となりました。(②についても同様)
 - ② 大学院・研究科・専攻の新設またはその年次進行中にご就任されたことがある方【例7】
大学院名、研究科名、専攻名、課程、職階(専任・兼担・兼任の別を含む)を記入し、判定内容(「M(マスター)」または「D(ドクター)」の別および判定結果「㊤」「合」「可」の別)を併記してください。
※ 平成15年度申請以降、研究指導科目についてのみ「㊤」「合」の判定が付されるようになりました。
(それ以外の講義科目等は「可」のみの判定)
- (8) その他
 - ① 自営業、主婦、無職(どこにも所属されていない期間)、自宅待機等についても省略せず記入してください。
 - ② 担当科目に直接関係がある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。
(例:看護学の教員で看護師経験のある方については、当時の勤務病棟名等)
 - ③ 研究生、副手、聴講生等についても記入してください。

I 履歴書

<記入例>

年 月		職 歴 事 項
例1	昭和50年4月	株式会社〇〇 〇〇部 〇〇課
	昭和62年4月	株式会社〇〇 △△支店 〇〇課 係長
	平成4年4月	株式会社〇〇 △△支店 〇〇課 課長 現在に至る
例2	昭和60年4月	株式会社〇〇 〇〇部 〇〇課長 (昭和62年3月まで)
	昭和62年4月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 講師 (英語I) 担当
	平成元年4月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 助教授 (英語I、英文購読) 担当 (平成5年3月まで)
	平成5年4月	△△大学 △△学部 〇〇学科 助教授 (英文購読、英会話) 担当
平成7年4月	△△大学 △△学部 〇〇学科 教授 (英文購読、英会話) 担当 現在に至る	
例3	昭和62年4月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 教授 (力学I、力学II) 担当 現在に至る
	平成3年4月	〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻 修士課程 教授 (力学特論) 担当 (平成5年3月まで)
	平成5年4月	〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻 博士後期課程 教授 (力学特殊研究) 担当 現在に至る
例4	昭和62年4月	〇〇大学 工学部長 (平成元年3月まで)
	平成7年4月	〇〇大学 情報処理センター長 現在に至る

《例5 兼任(非常勤)講師》

(兼任講師) 平成8年4月 平成10年4月	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 兼任講師 (物理学実験) 担当 (平成10年3月まで) △△大学 △△学部 兼任講師 (物理I、物理II) 担当 現在に至る
-----------------------------	--

《教員組織審査歴》

例6・学部等の場合

昭和〇〇年〇〇月 ↑審査年月	〇〇大学 ↑大学名	〇〇学部 ↑学部名	〇〇学科 ↑学科名	助教授(専任) ↑職階(区分)*	可:数学、数学演習 可↑となった科目名
-------------------	--------------	--------------	--------------	---------------------	------------------------

* (区分) … (専任)(兼任)(非常勤)のいずれかとなります。非常勤講師の場合 → 「講師(兼任)」

(前審査) 平成元年8月 平成15年10月	大学設置・学校法人審議会及び旧大学設置審議会教員組織審査判定 △△大学 △△学部 △△学科 講師 (兼任) 可:量子力学I、量子力学II 〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 助教授 (専任) 可:現代物理学、量子力学I、量子力学II、卒業研究
---------------------------------	--

例7・大学院の場合

(前審査) 平成6年1月 ↑平成14年以前の場合 平成15年10月 ↑平成15年以降の場合	大学設置・学校法人審議会及び旧大学設置審議会教員組織審査判定 ××大学大学院 ××研究科 ××学専攻 修士課程 教授 (専任) M合:特別研究、情報処理学特論I □□大学大学院 □□研究科 □□学専攻 博士後期課程 教授 (専任) D(合):特別研究、可:情報処理学特論II
---	---

【 I - iv 】 学会及び社会における活動等

「現在所属している学会」には、申請時(平成31年3月31日)において所属する学会の名称をすべて記入してください。

- (1) 専攻や研究分野等に関連する事項を(学会活動)と(社会活動)に分類し、それぞれ学会・所属(就任)機関ごと、年代順に記入してください。また、特別な役職を務められた場合はそれも記入してください。
※ (社会活動)は、〇〇審議委員会など学会以外の活動を記入してください。
- (2) 所属(就任)期間を明確に記入してください。現在も所属(就任)されている場合は、必ず「現在に至る」と併記してください。
- (3) 教育研究上の業績を有する場合は、その内容を具体的に記入してください。
- (4) 名称等は略さず正確に記入してください。外国の学会等、原語の場合は日本語訳(カタカナ等)と国名も併記してください。
- (5) 学会等の名称変更等があった場合は、その年月も記入してください。

<記入例>

学会及び社会における活動等	
現在所属している学会	〇〇学会、オフィス・オートメーション学会、日本経営工学会、 British Comparative Literature Association(英国比較文化学会)、△△学会
年 月	事 項
(学会活動)	※学会ごとでも、もしくはすべてをまとめて時系列に記載いただいても結構です。
昭和45年4月	日本工業経営学会(昭和60年7月「日本経営工学会」に名称変更)会員 現在に至る
平成 3年6月	日本経営工学会 論文誌委員(平成6年5月まで)
平成 6年6月	日本経営工学会 関西支部 支部長 現在に至る
昭和60年4月	オフィス・オートメーション学会 会員(平成3年3月まで)
平成 元年4月	オフィス・オートメーション学会 評議員(平成2年3月まで)
平成 6年9月	British Comparative Literature Association(英国比較文化学会)会員 現在に至る
(社会活動)	
平成 6年9月	大阪商工会議所 情報化推進委員会 委員 現在に至る
平成 6年4月	ロータリー財団 国際親善奨学会外国語試験委員(平成7年3月まで)
平成10年4月	ロータリー財団 国際親善奨学会外国語試験委員 現在に至る
平成 6年9月	枚方市 文化財研究調査会 委員 現在に至る
平成 6年9月	実用英語検定試験 面接委員(2級担当) 現在に至る
平成 9年4月	中小企業事業団 海外投資指導員 現在に至る

【I - v】賞罰

賞罰について記入してください。

- (1) 学会や出版社または職務上の表彰について記入してください。表彰の対象が論文等特定可能な場合はその名称も併記してください。
- (2) 外国での表彰等も記入してください。また、原語の場合は日本語訳を併記してください。
- (3) 職務上の懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等についても正確に記入してください。

<記入例>

賞 罰	
年 月	事 項
昭和63年4月	日本機械学会 論文賞 受賞 【受賞論文名：「多数供給孔を有するスラスト静圧気体軸受の理論」】

【 I - vi 】現在の職務の状況

現在の職務の状況について記入してください。

(1) 現在の職務の状況について

- ① 申請時現在における職務の状況について記入してください。
 - i 「職歴」欄において「現在に至る」と記入されたもの(非常勤講師等を含む)について、すべて記入してください。**(大学等教員の場合は、担当授業科目を記入してください)**
 - ii 毎月出席されているような学会の評議員会等の会合等があれば記入してください。
(年に数回の場合は不要です)
 - iii 「職名」については、大学等の教員をされている場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入してください。
- ② 企業等に勤務されているなど、教員以外の場合について
 - i 「勤務先」「職名」「所属部局の名称」の項を記入し、「勤務状況」に主な職務の内容を簡潔に記入してください。「職名」は、「取締役」「理事」等と記入してください。職名が無い場合は「-」を記入してください。また、大学等において、兼任(非常勤)講師をされている場合は各項目にすべて記入してください。

(2) 開設後の職務の状況について

- ① 専任教員として就任以降、本学以外で定期的に従事される職(他大学等の教員、企業等)があれば、すべて記入してください。
 - i 常勤、非常勤は問いません。
 - ii 「名誉職」のような場合で、定期的な勤務のない場合は記入不要です。
 - iii 本学以外で定期的に従事される職がない、または不明な場合は、「勤務状況」の欄に「なし」と記入してください。「勤務先」「職名」「学部等又は所属部局の名称」は空欄のままで結構です。
- ② 他大学等の兼任教員をされる場合は、「勤務先」に大学名、「職名」に兼任、「学部等又は所属部局の名称」に学部学科名(全学共通の場合等は適宜分かるような表記)、「勤務状況」は週あたりの勤務日数を記入してください。
- ③ 大学以外の業務の場合は、従事される職に応じて実態が分かるように適宜記入してください。
- ④ 記入された業務のうち、常勤の職については、「教員就任同意書」を必ず添付してください。(他大学等の兼任教員、非常勤の職の場合は不要です。)
- ⑤ 以下の例を参考に記入してください。

(例)	〔勤務先〕	〔職名〕	〔所属部局の名称〕	〔勤務状況〕
	株式会社△△	常勤	〇〇サブチーフ	4日/週
	〇〇弁護士事務所	常勤	所長	3日/週
	財団法人◇◇	非常勤	理事	1日/週

《《 参考 》》 専任、兼担、兼任(非常勤)講師の区分について

【専任】⇒ ・自分の所属する学科の授業科目を担当

【兼担】⇒ ・自分の所属する大学で、所属学科以外の学科等の授業科目を担当

【兼任】⇒ ・自分の所属する大学以外で授業科目を担当する

※ 同一法人内であっても所属大学以外の大学等の授業を担当される場合は兼任講師となります。

- ・企業を本務とされる方が、学校等の授業科目を担当される場合。
- ・本務を持たない方が、学校等の授業科目を担当される場合。

<記入例>

大学等の教員をされている場合（例：大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 の場合）

- ・本務校において、所属学科の授業（「コンピュータグラフィックスⅠ」「卒業研究」と、所属学科と他学科と合同の授業（「情報メディア演習」）を担当。
- ・他学部学科（工学部 建築学科）の授業（「基礎情報処理」）を担当。（兼任）
- ・大学院情報科学研究科（専任）の授業（「複雑系解析論Ⅰ」）を担当。
- ・他大学（×××大学）で授業（「情報処理基礎Ⅰ」）を担当。

現在の職務の状況			
勤務先	職名 (職位を記入)	学部等又は所属部局の名称	勤務状況 (担当科目を記入)
大阪工業大学	教授	情報科学部 情報メディア学科	[担当科目] コンピュータグラフィックスⅠ、卒業研究、情報メディア演習
大阪工業大学大学院	教授	情報科学研究科 情報科学専攻 修士課程	[担当科目] 情報科学特論、ゼミナール
大阪工業大学	兼任教授	工学部 建築学科	[担当科目] 基礎情報処理
×××大学	兼任講師	工学部 建築学科	[担当科目] 情報処理基礎Ⅰ
開設後の職務の状況			
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
△△大学	兼任	教養科目(全学共通)	情報処理論

企業に勤務されている場合

現在の職務の状況			
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況 (職務内容を記入)
株式会社○×	課長	技術部 データ管理課	○○○により収集したデータの検索及び運用に関する 企画・管理を担当している。
開設後の職務の状況			
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
△△大学	兼任	教養科目(全学共通)	情報処理論

II 教育研究業績書

この書類は、教員資格審査の中心となる書類です。「教育上の能力に関する事項」「職務上の実績に関する事項」「研究業績等に関する事項（著書、学術論文等）」について記入要領をご参照のうえ記入してください。

以前は著書・論文等の研究業績を中心に審査が行われていましたが、平成13年度に様式の大規模な改正があり、「教育上の能力に関する事項」「職務上の実績に関する事項」にも審査の重点がおかれるようになりました。このため、この項目については極力空欄とせず積極的に記入してください。

また、著書・学術論文を含む各実績・業績の概要については、文部科学省から『少なくとも200字で具体的に記入すること』との指示がありますので、200字を目安に記入してください。

記載内容に不備・不足がありますと、文部科学省において教員判定ができず、再提出等の処置をしなければならない場合があります。記入要領・作成例をご参照いただき、作成してください。

【II - i】「研究分野」「研究内容のキーワード」

ご依頼時に添付のファイル【「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧 日本学術振興会(PDF版)】(独立行政法人 日本学術振興会ホームページ)から選定してください。

- (1) 「研究分野」
 - i 科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。
 - ii 実務の経験を有するものとして審査を受ける方は、「<分科レベルの名称>に関する実務」と記入してください。
- (2) 「研究内容のキーワード」
 - i 同表の細目を参考に、研究(職務)内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。
 - ii 分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。

【II - ii】教育上の能力に関する事項(専門学校での例を含みます)

- (1) 「事項」の項について①
各区分に該当する担当予定授業科目に関連する「教育上の能力に関する事項」「職務上の実績に関する事項」を過去から現在まで簡潔に記入してください。
- (2) 「年月日」の項について②
当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
- (3) 「概要」の項について③
当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。
- (4) 「教育方法の実践例」【例1】
優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のインターネット上での公開、教育機関(司法研修所等)における教育経験、独自に開発・実践されている教育方法などについて記入してください。「概要」の項には、地位・役割・成果も記入してください。

(5) 「作成した教科書、教材」【例2】

ご自身で作られた授業や研修指導等で使用される著書、教材等、について記入してください。次頁の例を参考に**出版社名、内容、担当、掲載頁**を記入してください。

- ※ 後の研究業績等に関する事項(著書・学術論文等)と重複して記入いただいて結構です。
その場合、著書・学術論文等の業績を記入する「著書、学術論文等の名称」の欄の該当著書に『(再掲)』と記入してください。

(6) 「教育上の能力に関する大学等の評価」【例3】

i 以下の事項例を参考に記入してください。

- ① 各大学における自己点検・評価での評価結果
- ② 学生による授業評価(アンケート等)、教員による相互評価等の結果 ※数値化してください。
- ③ 学外の評価機関等が行った評価
- ④ 採用決定の際等における評価内容 等

ii 教育指導上の能力に関する評価(本学の所属長(予定者)による推薦文)として、自己アピールを盛り込んだ内容を、先生ご自身において記入していただくよう、追って依頼する場合があります。【例3-1】

- ※ 記入いただいた内容は所属長(予定者)が確認します。
- ※ 『教育上の能力に関する事項』であると考えられる事項については、積極的に記入してください。

(7) 「実務の経験を有するものについての特記事項」【例4】

- ① 大学から受け入れた実習生に対する指導歴(看護・福祉実習、企業実習等)
 - ② 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
 - ③ 職能団体(日本薬剤師センター等)の依頼による研修指導等
 - ④ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- (注)「教育」や「研究」あるいは「指導経験」に関する特記事項です。

(8) 「その他」【例5】

- ① 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- ② 国家試験問題の作成等

(9) 該当する業績がない場合は、各項目の欄に「なし」と記入してください。

(10) 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

<記入例>

①教育上の能力に関する事項		②年月日	③概要
例1	1 教育方法の実践例		
	(1) インターネットおよびテレビ会議システムを利用した国際交流	平成10年4月 ～ 平成11年3月	〇〇大学、〇〇大学、〇〇大学の3大学において、学生、大学院生によるインターネットおよびテレビ会議システムを利用した…中略…。このことにより、学生、大学院生が…中略…。このプロジェクトには、〇〇大学の代表として計画から実行まで全てについて関わった。
	(2) 〇〇〇〇の導入	平成12年10月 ～ 現在に至る	授業の終了時に、学生を数名程度のグループに分け、……をさせ……をする〇〇〇〇を導入した。この〇〇〇〇の導入にあたり、……が起こらないよう……に配慮した。この〇〇〇〇の実施により、学生が自ら積極的に授業に参加するようになり、……が向上した。また、導入初年度の年度末の学生アンケートでは、「前期よりも授業内容についてより理解できるようになった」「興味が持てるようになった」との声が多数寄せられた。
(3) △△△実習における学外実習の実践	平成13年4月 ～ 現在に至る	〇〇〇学科 4年次学生(約〇〇名)に対し……研究所、××××試験所、△△△△分析機関などにおいて、学生が約1週間にわたり学外実習を行う。その成果を大学に戻ってからまとめ、報告書および発表会(指導を受けた派遣機関の責任者の先生をコメンテーターとして参加)を行う。この派遣前の学生に対し、△△△△分野において基礎となる〇〇、〇〇、〇〇などの事前講義を外部講師によって実施した。	

例2	2 作成した教科書、教材		
	(1) 〇〇〇〇ワークブック	平成8年3月 ～ 現在に至る (毎年更新)	〇〇〇〇の内容について、学生が理解しやすいように〇〇〇〇〇〇に重点をおいてこの教材を作成した。これによって、従前では得られなかった〇〇〇〇〇〇をすることが可能となった。また、この教材は、平成〇〇年〇〇月以降、〇〇〇〇〇〇として広く〇〇〇〇を学ぶ学生に活用されるようになった。
	(2) 〇〇〇論 -□□□□-	平成10年3月	出版社:〇〇書店 著書全体の概要:…………… (教科書の頁数:〇〇頁) (共著者名:……………) 担当部分の概要:…………… (担当部分の掲載頁:pp. ~ 単著/共著の別) ※記入内容の詳細については、著書等の記入例を参照してください。

<記入例>

例3	3 教育上の能力に関する大学等の評価		
	(1) 学生による授業評価(〇〇大学) 例3-1 《参考》 (2) 教育指導上の能力に関する評価 (評価者:農学部長就任予定者)	平成13年12月 平成〇年〇月 (提出月の1ヶ月前)	〇〇大学において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。 [〇〇〇演習] ・よく理解できる 約〇〇% ・まあまあ理解できる 約〇〇% ・分かり難い 約〇〇% 全体の約〇〇%が理解できると回答している。 (全学平均は〇〇%) また、自由筆記には次のような意見があった。 ・話し方が明瞭で聞き取りやすい。 ・〇〇〇〇についての〇〇〇〇な説明によって、大変興味を持つことができた。 ・〇〇演習の講義を受けることにより、学習意欲や医学・医療に対する意欲が高まった。 ・学生によるプレゼンテーションが頻回に行われ、学生同士の討論がやりやすい雰囲気での講義である。 など 主として〇〇〇を専門とし、学会発表や論文執筆を継続的に行っており、若手の研究者として評価されている。〇〇としては、これまでに〇〇での〇〇活動をはじめ、〇〇〇〇や〇〇〇〇等、多彩な経験を積むとともに、大学院での〇〇における多くのTA指導経験、大学での教育歴もあり、充分な教育指導の実績がある。 以上から〇〇専攻(〇〇学位課程)における教育指導上の十分な能力を有するものと評価する。
農学部長就任予定者による評価となりますが、原案とするためご自身で作成ください。			

例4	4 実務の経験を有する者についての特記事項		
	(1) 〇〇大学 公開講座 (2) アメリカ合衆国※※州立大学への留学	平成元年11月 平成5年4月 ～ 平成6年3月	広く一般の人たちに〇〇についての理解を深めてもらうため「〇〇〇〇における〇〇〇〇」と題して講演した。 概要:〇〇〇〇〇〇〇…中略…〇〇〇〇〇。 ※※州立大学において、〇〇に関する研究を深めるため研究・開発に取り組んだ。主な内容としては、〇〇…中略…〇〇〇〇である。この研究成果が後に〇〇となり、〇〇において新たな開発の一歩となった。

例5	5 その他		
	(1) 〇〇国家試験受験対策委員会委員	平成5年4月 ～ 現在に至る	〇〇国家試験受験対策委員会委員として、…………… ………………中略……………テキストの作成、学生指導等全てにわたり担当した。

【Ⅱ－iii】職務上の実績に関する事項

- 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付のうえ申請します。記載事項に該当する証明書等で当室から入手のご依頼をさせていただいた場合につきましては、コピーを1部送付してください。
- 下記（1）～（4）に当てはまらない場合でも、『職務上の能力に関する事項』であると考えられる事項については、積極的に記入してください。

(1) 「資格、免許」【例1】

担当予定授業科目に関連する資格、免許について名称、取得年月、登録番号を記入してください。なお、学位については記入不要です。

(2) 「特許等」【例2】

特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するものについて、特許内容、特許登録番号および先生がご担当された内容や役割等について、詳しく記入してください。

(3) 「実務の経験を有する者についての特記事項」【例3】

- ① 大学との共同研究
- ② 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- ③ 各種審議会・行政委員会・各種ADR等の委員
- ④ 行政機関における調査官等
- ⑤ 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- ⑥ 調査研究、留学、海外事情調査等
- ⑦ 上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等があればあわせて記載してください。

(注)「教育」や「研究」あるいは「指導経験」以外に関する特記事項です。

(4) 「その他」【例4】

- ① 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- ② 論文の引用実績等

(5) 該当する業績がない場合は、各項目の欄に「なし」と記入してください。

<記入例>

職務上の実績に関する事項		年月日	概要
例1	1 資格、免許		
	(1) 医師免許	昭和〇〇年〇〇月	医籍登録第〇〇〇〇〇〇号
	(2) 高等学校教諭1種免許状	昭和〇〇年〇〇月	昭〇〇高1普第〇〇〇号
	(3) 第一種情報処理技術者	昭和〇〇年〇〇月	第〇〇〇〇〇〇号

例2	2 特許等		
	(1) 〇〇〇にかかる耐震装置	昭和〇〇年〇〇月 ～ 平成〇〇年〇〇月	〇〇に焦点をあて、〇〇に対する効果をあげることができ、〇〇〇することができた。…中略…。これにより、以前に比して〇〇〇が向上することを証明することができた。 担当部分:この研究開発にあたり、〇〇〇〇〇〇の中心となって〇〇〇〇〇〇を担当した。 特願昭 62-000000(昭和 62 年 10 月) 特許登録第 0000000 号(平成 7 年 3 月) (先生の名前を含め、この特許に携わった方の氏名: 〇〇〇、〇〇〇〇、……)

例3	3 実務の経験を有する者についての特記事項		
	(1) ※※介護センターにおける管理運営と地域での活動	昭和 60 年 8 月 ～ 昭和 63 年 5 月	高齢者、障害者の在宅療養を支援するために社会福祉法人※※介護センターが設立された。このセンターの開設準備にあたり、中心的役割を果たした。開設後は管理者として、地域で共に働く訪問看護師等との連携を保持しつつ、〇〇〇〇〇〇を行い、〇〇〇〇〇〇に対する理解を深めるための活動を行った。
	(2) 〇〇ビルの設計等	平成 3 年 8 月 ～ 平成 5 年 7 月	第 00 回〇〇市景観賞受賞 本設計は、……を考慮に入れ提案し、設計事務所 4 社によって行われたプロポーザルコンペにおいて当選したものである。 〇〇市が街のシンボリックなビルとして建設されたビル。建物と隣地の間には路地状の公開空地をとり、〇〇〇〇〇〇として市民にも公開されている。 担当部分:本プロジェクトにおいて、基本計画の段階から実施設計から監理にいたる一環のプロセスに携わった。また、プロジェクトのチーフとして中心的役割を果たした。
(3) 〇〇省………分析調査説明会において、技術専門家として調査結果についての解説を担当	平成 15 年 7 月 ～ 現在に至る	全国の民間分析機関および地方公共研究期間の約〇〇機関を対象に、〇〇省が実施している………分析調査説明会において技術専門化として参加し、該当年度の調査結果から得られた知見を解説した。	

例4	4 その他		
	(1) 広島県〇〇町〇〇島の住民との交流会に参加	平成元年11月 ～ 現在に至る	町から要請を受け、高齢者が住民の 70%を占める島で、町民のふれあいの場を設け、レクリエーション活動などを行い、老人の楽しみや痴呆予防の活動を続けてきた。 また、この活動内容を授業において学生に伝え、身近なものとして実感できるようにしている。

【Ⅱ－iv】研究業績等に関する事項(「著書」・「学術論文」・「その他」)

近年、業績の水増しなど虚偽の申請が問題となっております。ご業績の選定は十分ご確認のうえ記載いただきますようお願いいたします。

- (2) 業績の中から、担当授業科目に関連するものを記入してください。
記載件数についての指定はありませんが、20～30件程度を目安とし(「学術論文」は全て記載)、次に挙げた内容をご参照のうえ、「著書」「学術論文」「その他」について記入してください。
- ※ 各「著書」「学術論文」等の名称の下に、「筆頭論文」「査読付」「博士号取得論文」「口頭発表」「ポスター発表」「報告書」「総説」など、記載してください。
 - ※ 「著書」「学術論文」以外の業績は「その他」に記載してください。
 - ※ 「その他」の「学会発表」は最近のものを記載してください。
 - ※ 未発表のものは記入できません(予稿集も除く)。
- (2) (1)により選定いただいた「著書」「学術論文」「その他」を、それぞれ時系列にし、記入例を参照のうえ記入してください。
- ※ 業績区分により、記載方法が若干変わりますので注意してください。

(3) 査読付の論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。

- (4) 業績書に記載しない業績につきましては、業績書末尾の「上記記載以外に、著書〇〇件、……」という欄に件数のみを記入してください。
業績のすべてを「教育研究業績書」に記載されている場合は、それぞれ「〇件」としてください。

- (5) 発表・発行予定の業績について

文部科学省への申請時【平成31年3月】で未発表(発表予定)の業績は記載することができません。

(1) 『著書』

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
－単著の場合－				
1 ① <著書の題名> 『(再掲)』	② 『単著』	③ <発行年月>	④ <出版社名>	⑤ <著書全体の概要> ⑥ <著書全体の頁数>『(頁)』
－共著の場合－				
2 ① <著書の題名>	② 『共著』	③ <発行年月>	④ <出版社名>	⑤ <著書全体の概要> ⑥ <著書全体の頁数>『(頁)』 ⑦ <先生を含めた編者・共著者氏名> 『(編者: 共著者:)』 ⑧ <ご担当された部分の概要> 『担当部分: 』 ⑨ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 『(pp. ～ 単著)』

- ① <著書の題名>
イ) 著書の題名を正確に記入してください。**英語の場合は()で和訳が必要です。**
ロ) 「教育上の能力に関する事項 2.作成した教科書、教材」欄に記載された業績については、「(再掲)」と記入してください。
- ② <単著／共著の区分>
「単著」→当該著書の全てについて、先生がお一人で執筆された場合。
「共著」→当該著書は他の先生との共同執筆である場合。
(注) ご担当部分が単著であっても、著書全体で他の執筆者がいる場合は「共著」となります。
- ③ <発行年月>
イ) 当該著書の発行年月を元号により記入してください。
ロ) 発行月が不明な場合は学会や前職場等でご確認ください。
- ④ <出版社名>
発行元等の名称または出版社名を記入してください。
- ⑤ <著書全体の概要>
イ) 著書全体の概要について、**200字程度で具体的に**記入してください。
(注) 共著の場合、全体の概要について200字程度にまとめたうえで、担当部分について簡潔に記入してください。
- ⑥ <著書全体の頁数>
イ) 著書の総頁数を記入してください。
ロ) 明確に記入できない場合は、(約〇〇頁)としてください。
- ⑦ <先生を含めた編者・共著者氏名> 【『共著』の場合のみ必要】
イ) 著書全体についての共著者氏名を先生の名前を含め、全員の氏名をフルネームで記入してください。
(注1) ご担当部分の共著者氏名ではありません。
(注2) 先生の名前に下線を付してください。
ロ) 当該著書に記載された順に記入してください。
ハ) 筆者が多数に及ぶ場合は、5～6人記載し、他〇〇人としてください。
- ⑧ <ご担当された部分の概要> 【『共著』の場合のみ必要】
イ) 先生がご担当された部分について、「章」「節」「題目」「**掲載ページ**」「概要」を記入してください。
ロ) 全体について共同執筆者と共同で執筆されている場合で、先生のご担当部分が特定不可能な場合は、**『担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』**としてください。
(注) この場合、⑨<ご担当された部分の掲載頁と区分>については記入不要です。

⑨ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 【『共著』の場合のみ必要】

- イ) ご担当部分が掲載された頁を記入してください。記載方法は「(pp.〇〇～〇〇)」としてください。
- ロ) ご担当部分が単著の場合は、「(pp.〇〇～〇〇 単著)」としてください。
(注) 共著の場合は掲載頁の記載のみとしてください。
- ハ) ご担当部分の概要は明記可能でも、掲載頁については特定が困難であったり不可能な場合は『(掲載頁特定不可能)』としてください。

<記入例>

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
○ 1冊の著書を1人で執筆された(「単著」)場合				
現代人の発育発達と体力	単著	昭和 63 年 4 月	三和書房	情報化や半病人社会といわれる社会現象に基づく体力減退に対応するための教育内容を導入し、……中略……身体能力の開発という目標に重点をおき、芸術的かつ平易に生体の発育発達現象を解説し、運動の効果と方法、体力の保持・増進の本質に接近しようと試みた。(220 頁)
○ 1冊の著書を複数名で執筆(「共著」)したが、担当部分はお一人で執筆され、掲載頁が特定できる場合。				
近代政治思想史(1)	共著	平成元年 12 月	有斐閣	ルネサンス、宗教改革、絶対王政の確立というヨーロッパの激動の時代に発展した近代政治思想の流れを ……中略…… したものである。(560 頁) (編集:山本太郎 共著者:山本太郎、川本祐介、田中文昭、本人(先生)の氏名、山村花江) 担当部分:題名:第 2 章「ドイツ宗教改革と政治思想の展開」 初期には改革的でありながら、……中略……遂には既成の政治思想の動きを一方では彼の宗教的前提から、他方では当時の歴史的状況から解明した。(pp.36～50 単著) ←ご担当部分が単著の場合
○ 1冊の著書を複数名で執筆。担当部分も複数名で執筆した場合。				
診療放射線技術大系 —放射化学・放射線化学—	共著	平成 7 年 12 月	有斐閣	放射線性壊変、放射線と物質との相互作用、放射線および放射能の測定、核反応と放射性核種生成、放射化学分析の技術、放射線の化学作用とその応用、放射性核種の応用概説など放射線技術の基礎としての放射化学・放射線化学を基礎理論から放射線・核医学診療応用に至るまで体系的に記述した。(450 頁) (和田浩、宮尾真介、鈴木一郎、上野雄一、本人(先生)の氏名 他 25 人) 担当部分:第三章「放射線および放射能測定」 〇〇〇に関する研究によって〇〇〇が解明され、……中略……を導き出した。(pp.135～170) ←ご担当部分も共著の場合

○ 1冊の著書を複数名で執筆(「共著」)し、担当部分が特定できない場合。

近代政治思想史(1)	共著	平成元年 12 月	有斐閣	ルネサンス、宗教改革、絶対王政の確立というヨーロッパの激動の時代に発展した近代政治思想の流れを……中略……したものである。 (560 頁) (編集:本人(先生)の氏名、山本太郎 共著者:山本太郎、川本祐介、田中文昭、本人(先生)の氏名、山村花江) 担当部分:編者として、全体の編集を行った。 (掲載頁特定不可能)
------------	----	-----------	-----	---

(2) 『学術論文』

学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものについて記入してください。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
－単著の場合－				
1 ① <論文の題名> 《筆頭論文》	② 『単著』	③ <発行年月>	④ <掲載誌等名称> ⑤ <Vol. No.等> ⑥ <掲載頁> 『pp. ~ 』 ⑦ <発行所名称>	⑧ <論文の概要> ⑨ <論文の頁数>『(頁)』
－共著の場合－				
2 <論文の題名> (査読付)	② 『共著』	③ <発行年月>	④ <掲載誌等名称> ⑤ <Vol. No.等> ⑥ <掲載頁> 『pp. ~ 』 ⑦ <発行所名称>	⑧ <論文の概要> ⑨ <論文の頁数>『(頁)』 ⑩ <先生を含めた共著者氏名> 『(共著者:)』 ⑪ <ご担当された部分の概要> 『担当部分:概要/or/共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』 ⑫ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 『(pp. ~)/or/(掲載頁特定不可能)』

① <論文の題名>

イ) 論文の題名を正確に記入してください。英語の場合は()で和訳が必要です。

※和訳はオーソライズされたものでなくとも構いません。

ロ) 筆頭論文である場合は、『《筆頭論文》』と記入してください。

ハ) 学位論文である場合は、その旨を併記してください。

② <単著/共著の区分>

「単著」→当該論文のすべてについて、先生がお一人で執筆された場合。

「共著」→当該論文が他の先生との共同研究である場合。

(注)当該論文のご担当部分が単著であっても、共著者がいる場合は「共著」となります。

③ <発行年月>

イ) 当該著書の発行年月を元号により記入してください。

ロ) 発行月が不明な場合は発行年のみの記入でも構いません。

④ <掲載誌等名称>

当該論文が発表された雑誌等の名称を記入してください。

⑤ <Vol. No.等>

当該論文が発表された雑誌等の Vol. No.等がある場合は記入してください。

⑥ <掲載頁>

当該論文が発表された掲載頁を記入してください。

⑦ <発行所名称>

雑誌等の発行所(学会、大学等)、出版元等を記入してください。

⑧ <論文の概要>

論文の概要について、200字程度で記入してください。 ※英語は日本語に直してください。

⑨ <論文の頁数>

当該論文の総頁数を記入してください。

⑩ <先生を含めた共著者氏名> 【『共著』の場合のみ必要】

イ) 当該論文の共著者(共同研究者)氏名を、先生の名前を含め、全員の氏名をフルネームで記入してください。

(注1) ご担当部分のみの共著者氏名ではありません。

(注2) 先生の名前に下線を付してください。

ロ) 当該論文の発表時に記載された順に記入してください。

⑪ <ご担当された部分の概要> 【『共著』の場合のみ必要】

イ) 先生がご担当された部分について、「題名」「概要」を記入してください。

ロ) 論文全体について共同執筆者と共同で執筆されている場合で、先生のご担当部分が特定不可能な場合は、『担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』としてください。

(注) この場合、⑫<ご担当された部分の掲載頁と区分>については記載不要です。

⑫ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 【『共著』の場合のみ必要】

イ) ご担当部分が掲載された頁を記入してください。記載方法は「(pp.〇〇～〇〇)」としてください。

ロ) ご担当部分が単著の場合は、「(pp.〇〇～〇〇 単著)」としてください。

(注) 共著の場合は掲載頁の記載のみとしてください。

ハ) ご担当部分の概要は明記可能でも、掲載頁については特定が困難であったり不可能な場合は『(掲載頁特定不可能)』としてください。

<記入例>

【学術論文】				
○ お一人で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載された場合。				
多変量解析に対するユーザーのニーズ	単著	平成8年3月	行動計量学 Vol.19、No.1 pp.40～48 日本行動計量学会	現在さまざまな多変量解析法が存在する。……中略…… そのそれぞれの手法に対してユーザーはどのような点に対し使い難さ、不信感、疑問点をもっているか、それに対してどのように対応すべきかを論じた。(9頁)

II 教育研究業績書

○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載された場合。 (担当部分は明記できるが、頁は特定できない場合)				
物流ネットワークにおける輸送ロットサイズの決定に関する研究	共著	平成3年6月	日本経営工学会誌 Vol.44、No.2 pp.124～130 日本経営工学会	生産／物流におけるネットワークシステムを設計する。その上で、MRP／DRPの手法を用いて、最適なロットサイジングを行い、在庫削減を図るものである。(7頁) (雪村貴、伝田義則、本人(先生)の氏名) 担当部分:実態調査について、調査項目の選定から集計、図表化などを担当。 (担当頁特定不可能)
○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載され、この論文が筆頭論文の場合。 (担当部分・掲載頁が特定できない場合)				
自己資本・負債・メインバンク借入 —日本企業の最適資本構成— 《筆頭論文》	共著	平成5年8月	金融経済研究 第18号 pp.42～52 金融学会	日本企業の資本構成を新しい視点から検討した。企業の資本構成を分析するにあたって自己資本と負債の構成だけでなく、2種類の負債(通常負債とメインバンク借入)の構成にも目し、簡単なモデルを使って企業の最適資本構成を考察した。(11頁) (本人(先生)の氏名、津川文哉、山本正一) 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、雑誌等に掲載された場合。 (担当部分が単著の場合)				
経営における人間疎外とその回復のための研究	共著	平成10年9月	大阪工業大学中央 研究所報 第7号 pp.29～104 大阪工業大学	本研究は、企業の労働者にとっての疎外感はどこにあるのか、また、生きがいを求めているのか、企業として人間性、回復のための経営政策としては何が有効であるかについて実態調査を通じて考察したものである。(76頁) (堀良一、桜沢一樹、木村高、高橋肇、 本人(先生)の氏名 他8人) 担当部分:「題名」 担当部分の概要 (pp.84～103 単著)
○ 学位論文の場合				
多変量解析に対するユーザーのニーズ	単著	平成3年6月	[博士学位論文] 〇〇〇大学大学院 紀要 第13集 pp.1～122	アメリカの労働仲裁について、その変遷、機構、手続き、機能、仲裁の対象とされる紛争、立法との関係および協約との関連等に関する問題点を学説、判例を挙げて考察し、最後に西欧5カ国、西ドイツ、フランス、スウェーデン、イギリスおよびイタリアの仲裁制度の問題点とアメリカのそれについて比較法的見地からの検討を試みた。(122頁)

(3) 『その他』

I 総説、学会抄録、依頼原稿、書評等。(名称欄には当該記事のタイトルを記入してください。)

II 口頭(報告)発表、座談会、討論等。(名称欄には当該テーマを記入してください。)

※口頭(報告)発表については、「学会大会名」と「開催場所」を併記してください。

III その他、辞典、翻訳書等。

IV 研究費補助金取得状況等。

※『著書、学術論文等の名称』欄に、当該業績の区分([口頭発表]、[総説]、[事典]、[訳書]etc)を記入してください。記載順序は区分ごとに分類せず、I・II・IIIのすべてを時系列に並べてください。

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
(その他)				
○ 訳書の場合 [著書の記入要領を参照してください]				
「科学の歴史」I 〔訳書〕	共著	平成 12 年 3 月	河出書房新社	自然科学の歴史を認識のパラダイムの変化という観点から取り上げ、個々の科学者に則して展望したものである。(540 頁) (著者:A.FORD) (共訳者:谷田仁志、上村加奈、 本人(先生)の氏名、林太郎 他 11 名) 担当部分:「ロージャ・バーコン」「ルネ・デカルト」 自然科学の発展に寄与したこの二人の思想を、彼らの著作を中心として解明している。 (pp.19~25、35~47)
○ 口頭発表の場合				
① <題名> ② <区分> 『〔口頭発表〕』	③ 『-』	④ <発表年月>	⑤ <発表された会議等の名称> ⑥ <開催場所>	⑦ <発表の概要>
① <題名> ② <区分> 『〔口頭発表〕』	③ 『-』	④ <発表年月>	⑤ <発表された会議等の名称> ⑥ <開催場所>	⑦ <発表の概要> ⑧ <先生を含めた共同発表者の氏名> 『(共同発表者:)』 ⑨ <ご担当された部分の概要> 『担当部分: 概要/or/共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』
例) The effect of figural characteristics of stimulus on the illusory motion. 〔口頭発表〕	-	平成 10 年 1 月	国際心理学会 第 24 回秋季国際大会 (京都)	いくつかの運動残効実験を通して、運動情報処理システムの階層性について考察した。特に速度・方向チャンネルに対する図形特性の硬化や相対的な運動知覚の効果が追及され、高次の運動知覚のあり方が検討された。

